

2021年2月21日(日)朝10:10

四旬節第1、自由交歓会等

1月第3受難節共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：イエス様を信じる小さき者(21～)

聖書：マタイ 19章13～26節

<口語訳>

新約聖書30～31頁

マタイ 19章13～26節

<新共同訳>

新約聖書37～38頁

マタイ 19章13～26節

<新改訳第3版>

新約聖書38～39頁

マタイ 19章13～26節

<塚本訳>

新約聖書100～102頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇本日は、**マタイ19:13～26節**の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**イエス様を信じる小さき者(21～)**」は、「自分を無価値の者と告白し、主に御頼りした者は、だれ一人、無価値なものではなく、皆偉い人なのです」と、**SY師は仰せ**です。
- ⇒子供が連れておられ、手を置いて祝してほしと願う者があり、弟子たちは叱るのですが、主は、邪魔してはいけないと言われ、子供の上だけでなく、求める者の上に手を置いて、祝福し、「**天の国はこの者のような者たちの国**なのです」と、**仰せになりました**。
- ⇒「**このような者たち**」とは、**主を信じ求める「子供のようにへりくだった者たち**」で、**子供も含めた者たち**でした(14)。

本論；

◇本日、**マタイ書19章13～26節**から主の**使信**に**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ19章13～26節**；**使徒マタイ**は、  
「**イエス様を信じる小さき者**(21～)」との主のみことばを通して、「**神(天)の国**」の隠されている「**神の真理・真実**」を示しています。

◇**マタイ19:13～26節**；**塚本訳**◆

子供を祝福される<13～15>

13 それから、イエスに手をのせて祈っていただくとして、人々が子供たちをつれて来ると、弟子たちが咎めた。

14 イエスは言われた、「子供たちを放っておけ、わたしの所に来るのを邪魔するな。天の国はこんな(小さな)人たちのものである。」

15 それから子供たち(の頭)に手をのせて祝福したのち、そこを去られた。

◆**金持ちの青年**<17～22>

16 するとそこに、ひとりの人がイエスの所に来て言った、「先生、永遠の命を得るには、どんなよいことをすればよいでしょうか。」

17 イエスは言われた、「なぜ善いことについっ

てわたしに尋ねるのか。善いお方はただ一人(神)である。(永遠の)命に入りたければ、(神の)掟を守りなさい。」

18 「どの掟を」と彼が言う。イエスはこたえられた、「『殺してはならない、姦淫をしてはならない、盗んではならない、偽りの証言をしてはならない、

19 父と母とを敬え、』また『隣の人を自分のように愛せよ。』」

20 青年が言う、「それならみんな守っております。まだ何か足りないでしょうか。」

21 イエスは言われた、「完全になりたければ、家に帰って持ち物を売って、(その金を)貧乏な人に施しなさい。そうすれば天に宝を積むことができる。それから来て、わたしの弟子になりなさい。」

22 青年はこの言葉を聞き、悲しそうにして立ち去った。大資産家であったのである。

#### ◆金持ちと神の国<23~26>

23 イエスは弟子たちに言われた、「アーメン、わたしは言う、金持ちが天の国に入ることはむずかしい。

24 かさねて言う、金持が天の国に入るよりは、駱駝が針のめどを通る方がたやすい。」

25 これを聞いて、弟子たちは非常に驚いて言った、「ではいったい、だれが救われることが出来るのだろう。」

26 イエスは彼らをじっと見て言われた、「これは人間には出来ないが、『神にはなんでも出来る。』」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ19:13～15節**；「それから、イエスに手をのせて祈っていただくとして、人々が子供たちをつれて来ると、弟子たちが咎めた(13)」、「イエスは言われた、「子供たちを放っておけ、わたしの所に来るのを邪魔するな。天の国はこんな(小さな)人たちのものである(14)」イエスは言われた、「子供たちを放っておけ、わたしの所に来るのを邪魔するな。天の国はこんな(小さな)人たちのものである(15)」、「**御子イエス・キリスト様**」は、「子供たち」を叱る弟子たちを制して、「子供たちや主を求めて来た人々」の上に手を置いて、祝福して下さいました。

◇**マタイ19:16~22節** ; 「するとそこに、ひとり  
の人がイエスの所に来て言った、「先生、永  
遠の命を得るには、どんなよいことをすれば  
よいでしょうか。」(16)、「イエスは言われた、「な  
ぜ善いことについてわたしに尋ねるのか。  
善いお方はただ一人(神)である。(永遠の)  
命に入りたければ、(神の)掟を守りなさい。」  
(17)、「どの掟を」と彼が言う。イエスはこたえら  
れた、「『殺してはならない、姦淫をしてはなら  
ない、盗んではならない、偽りの証言をしては  
ならない(18)』、「父と母とを敬え、』また『隣の人  
を自分のように愛せよ。』」(19)、「青年が言う、  
「それならみんな守っております。まだ何か足  
りないでしょうか。」(20)、「イエスは言われた、  
「完全になりたければ、家に帰って持ち物を  
売って、(その金を)貧乏な人に施しなさい。  
そうすれば天に宝を積むことができる。それか  
ら来て、わたしの弟子になりなさい。」(21)」、  
「青年はこの言葉を聞き、悲しそうにして立ち  
去った。大資産家であったのである(22)」と、  
「**御子イエス・キリスト様**」は、「永遠のいのち」  
を得る方法を求める青年に、「十戒の後半・

隣人愛の律法」を示され、「完全になりたければ、家に帰って持ち物を売って、(その金を)貧乏な人に施しなさい。そうすれば天に宝を積むことができる。それから来て、わたしの弟子になりなさい。」(21)」と仰せになりました。

⇒「完全」は、完全服従で、「立派になりたいなら、戒めを守った上で、完全服従しなさい」と、「御子イエス・キリスト様」は、青年に仰せになりました。

⇒主のことばを悟れず、「まだ何か足りないでしょうか」と、主が、「完全にならなければ」と言われたことばにこだわったのです。

⇒主は、敢えて青年の無知を承知の上で、青年が最も、拠り所としている、「家に帰って持ち物を売って、(その金を)貧乏な人に施しなさい。そうすれば天に宝を積むことができる。それから来て、わたしの弟子になりなさい」と命じ、財産を貧しい人に施しなさいと指示されたのです。

⇒OA師が指摘されるように、迫害者だったパウロは、「サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか」との、主の天からの御声を聴いた時、

躊躇なく従ったのです。

⇒この時の青年は、自分の考え、発想に拘り、主の命令に従えませんでした。

⇒一見、完全服従は、完璧服従と誤解して、躊躇することがありますが、自分の行いや思いを完全にすることではなく、主の完全に御頼りすることなのです。

⇒自己卑下ではなく、自分の無力無能さを主の前に認めて、身を低くして、主の赦しと憐れみにおすがりすることが、主への完全服従なのです。

◇**マタイ19:23～26節**；「イエスは弟子たちに言われた、「アーメン、わたしは言う、金持が天の国に入ることはむずかしい。(23)」、「かさねて言う、金持が天の国に入るよりは、駱駝が針のめどを通る方がたやすい。」(24)」、「これを聞いて、弟子たちは非常に驚いて言った、「ではいったい、だれが救われることが出来るのだろう。」(25)」、「イエスは彼らをじっと見て言われた、「これは人間には出来ないが、『神にはなんでも出来る。』」(26)」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「弟子たち」に、「金持



ち」が、天の国に入ることは、むずかしいと語り、「これは人間には出来ないが、『神にはなんでも出来る。』」(26)」と言われたのです。

⇒「**金持ち**」は、主に救いを求めた青年を暗に示しておられます。彼は、**神のわざ**を受けとめかねたのです。**神の前**の信仰より善行の完璧さを優先したのです。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、弟子たちが、だれが偉大かを競い合っていましたので、目の前の青年を実物教訓として、「天の国」の実体を示されてのです。

⇒「天の国」は、**神**が与えてくださる「**神の御子イエス・キリスト様**」にある永遠の結びつきであると、語ろうとされたのです。それは、人間の側から獲得するのは、困難で、**神**が与えてくださるものだからです。

⇒ですから、私たちは、「天の国」を自分の努力や頑張りではなく、**神の恵み**によって、永遠の交わりに入れていただきましょう。

⇒「天の国」は、すでに来ているのですが、そこに移されるには、時があります。**神信仰**と忍耐をもって、その時を待ちましょう。

⇒Ⅱコリント12:9～10【口語訳】

9 ところが、主が言われた、「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」。それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。

10 だから、わたしはキリストのためならば、弱さと、侮辱と、危機と、迫害と、行き詰まりとに甘んじよう。なぜなら、わたしが弱い時にこそ、わたしは強いからである。

## 結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。
- ◇本日は、**マタイ19:13～26節**の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**イエス様を信じる小さき者**(21～)」は、「自分を無価値の者と告白し、主に御頼りした者は、だれ一人、無価値なものではなく、皆偉い人なのです」と、**SY師**は仰せです。
- ⇒子供が連れておられ、手を置いて祝してほしと願う者があり、弟子たちは叱るのですが、主は、邪魔してはいけないと言われ、子供の上だけでなく、求める者の上に手を置いて、祝福し、「**天の国はこの者のような者たちの国なのです**」と、仰せになりました。
- ⇒「**このような者たち**」とは、主を信じ求める「**子供のようにへりくだった者たち**」で、子供も

## 含めた者たちでした(14).

⇒エペソ3:6～11【口語訳】;

- 6 それは、異邦人が、福音によりキリスト・イエスにあって、わたしたちと共に神の国をつぐ者となり、共に一つのからだとなり、共に約束にあずかる者となることである。
  - 7 わたしは、神の力がわたしに働いて、自分に与えられた神の恵みの賜物により、福音の僕とされたのである。
  - 8 すなわち、聖徒たちのうちで最も小さい者であるわたしにこの恵みが与えられたが、それは、キリストの無尽蔵の富を異邦人に宣べ伝え、
  - 9 更にまた、万物の造り主である神の中に世々隠されていた奥義にあずかる務がどんなものであるかを、明らかに示すためである。
  - 10 それは今、天上にあるもろもろの支配や権威が、教会をとおして、神の多種多様な知恵を知るに至るためであって、
  - 11 わたしたちの主キリスト・イエスにあって実現された神の永遠の目的にそうものである。
- ⇒確信をもって、「天国人」を誇りましょう。